新専門医制度　内科研修プログラム

福山市民病院

目次

研修プログラム ページ

1. 理念・使命・特性 2
2. 募集専攻医数【整備基準 27】 4
3. 専門知識・専門技能とは 5
4. 専門知識・専門技能の習得計画 6
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】 9
6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】 9
7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 9
8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】 10
9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】 10
10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】 11
11. 内科専攻医研修【整備基準 16】 12
12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】 12
13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】 14
14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】 15
15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】 15
16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】 16
17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 17
18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】 17

福山市民病院内科専門研修施設群 19

1)専門研修基幹施設 22
2)専門研修連携施設 24
3)専門研修特別連携施設 44

福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会 53

別表 1　福山市民病院　各年次到達目標 54

別表 2　福山市民病院　内科専門研修　週間スケジュール 55

研修プログラム

1．理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1）本プログラムは，広島県福山市を中心に，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の中心的な急性期病院である福山市民病院を基幹施設として，主に福山市内や岡山県西部にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て広島県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として広島県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2）初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2-2.5 年間＋連携・特別連携施設 6-12 か月）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します．内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1）広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1）本プログラムは，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の中心的な急性期病院である福山市民病院を基幹施設として，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．基幹施設 2-2.5 年間＋連携・特別連携施設 6-12 か月の計 3 年間になります．

2）基幹施設である福山市民病院は，救命救急センターを併設し，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の言わば救急の砦となる施設です．しかし，当地福山市は非県庁所在地で医学部のある大学が存在せず，最も医療スタッフを有する当院ですら内科若手スタッフが少ない．この状況のなかで，日勤帯の救急当番や緊急処置および内科当直の担い手である後期研修医を 1 年間連携施設または特別連携施設へ出す人的余裕がない可能性があります．そこで，今回は基幹施設以外での研修は原則 12 か月とし，当院の内科救急の維持が困難であれば 6 か月も許容して，当院の実情に合致した比較的 Subspeciality を重視した研修プログラムを作成した．基幹施設以外での研修期間については，今後専攻医の人数等により，見直していく予定です．

3）福山市民病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

4）基幹施設である福山市民病院は，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

5）基幹施設である福山市民病院での 1-1.5 年間と連携施設または特別連携施設での 6-12 か月間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.54 別表 1「福山市民病院　各年次到達目標」参照）．

6）福山市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目の 6-12 か月間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

7）基幹施設である福山市民病院での 2-2.5 年間と専門研修施設群での 6-12 か月間（専攻医 3 年修

了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち，少なくとも通算で56疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（P.54 別表 1 「福山市民病院　各年次到達目標」参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，1）高い倫理観を持ち，2）最新の標準的医療を実践し，3）安全な医療を心がけ，4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科的（Generality）専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

福山市民病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～9)により，福山市民病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名とします．

1）福山市民病院内科専攻医は現在 3 学年併せて 6 名で，2024 年度は他院プログラム併せて 1 学年 11 名となっております．
2）現在の専攻医は比較的特定の専門科に集中していますが，指導医は各専門科に万遍なく配しており，1 学年 6 名程度は十分指導可能です．
3）剖検体数は 2021 年度は 11 体，2022 年度は 10 体，2023 年度は 12 体です．

表．福山市民病院診療科別診療実績

2023 年度実績	入院延べ患者数
消化器疾患	16,529
肝臓疾患	7,629
呼吸器疾患	10,172
脳・神経系疾患	424
血液疾患	2,967
腎・泌尿器疾患	2,119
糖尿病疾患	424
膠原病・内分泌疾患	424
循環器	12,816
総合診療	1,695
合　計	55,199

4）消化器（消化管・肝胆膵），呼吸器，血液，腎臓，神経，循環器は症例が豊富であり，1 学年 6 名に対して十分な症例を経験可能です.

5）糖尿病内科は週 3 回非常勤医ですが，入院が必要な症例が発生した場合は非常勤の専門医の指導の下，専攻医が入院主治医となり症例を経験します.

6）2022 年度は 13 領域のうち，内分泌を除く 12 領域の常勤もしくは外来非常勤医として専門医が 1 名以上在籍しています（P.19「福山市民病院内科専門研修施設群」参照）

7）1 学年 6 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

8）専攻医 2 年目に研修する連携施設・特別連携施設には，特定機能・専門病院 5 施設，地域基幹病院 5 施設および地域医療密着型病院 5 施設，計 15 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.

9）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です.

3．専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2）専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身

体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません．

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P.54 別表 1「福山市民病院　各年次到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）１年

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．

・専門研修修了に必要な病歴要約を 20 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修（専攻医）２年

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．

・専門研修修了に必要な病歴要約 29 症例をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します．

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる

・360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．

○専門研修（専攻医）３年

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.
・並行して，予定通り症例経験や病歴要約の提出が出来ている専攻医については，希望により Subspeciality 重点研修が可能です．また，その間にも，Generalist としての研鑽を積むために，週に 1 回程度の内科初診外来，日中の救急車当番および内科一般当直は継続して頂きます.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

福山市民病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2-2.5 年間＋連携・特別連携施設 6-12 か月間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2）臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.
② 定期的（毎週 1 回以上）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.
③ 当日初診外来を週 1 回，専攻医として当院在住中は担当して経験を積みます.

④ 週 2 日午前 or 午後に日勤帯の救急当番で内科領域の救急診療の経験を積みます.
⑤ 月 2-3 回程度，当直医として夜間休日の救急外来の walk in 患者や救急搬送患者の診療の経験を積みます.
⑥ 要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します.

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応，2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，5）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します.

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2023 年度実績 4 回）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します.
③ CPC（基幹施設 2023 年度実績 4 回）
④ 研修施設群合同カンファレンス
⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：オープンカンファレンス，がんカンファレンス等：2023 年度実績 13 回以上）
⑥ JMECC 受講（基幹施設：2023 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）
※ 内科専攻医は原則専門研修 1 年目に 1 回受講します.
⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)，B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で

最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．

・専攻医による逆評価を入力して記録します．

・全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します．

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．

5．プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

福山市民病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.19「福山市民病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

6．リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．

福山市民病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．

② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence based medicine）．

③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．

④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う．

⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く．

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う．

② 後輩専攻医の指導を行う．

③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います．

7．学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

福山市民病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）．

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．

④ 内科学に通じる基礎研究を行います.
を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.
なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，福山市民病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.
福山市民病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．福山市民病院内科専門研修施設群研修施設は主に広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏，近隣医療圏の医療機関から構成されています.
福山市民病院は，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.
連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医

療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である川崎医科大学附属病院，広島大学病院，岡山大学病院，倉敷中央病院，大田記念病院（神経専門），地域基幹病院である福山医療センター，川崎医科大学総合医療センター，岡山赤十字病院，津山中央病院，広島市民病院および地域医療密着型病院である笠岡市立市民病院，井原市民病院，神石高原町立病院，福山南病院，府中市民病院で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，福山市民病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

福山市民病院内科専門研修施設群(P.19)は，主に広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏，近隣医療圏の医療機関から構成しています．最も距離が離れている広島大学病院は広島市内にあるが，福山市から新幹線で 25 分程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです．特別連携施設である井原市民病院，神石高原町立病院，福山南病院，府中市民病院での研修は，福山市民病院のプログラム管理委員会と研修管理委員会とが管理と指導の責任を行います．福山市民病院の担当指導医が，井原市民病院，神石高原町立病院，福山南病院，府中市民病院の上級医とともに専攻医の研修指導にあたり，指導の質を保ちます.

10．地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

福山市民病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

福山市民病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

11. 内科専攻医研修【整備基準 16】

図1．　福山市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

研修期間：3年間（基幹施設2-2.5年間＋連携・特別連携施設6-12か月間）

基幹施設である福山市民病院は，救命救急センターを併設し，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の言わば救急の砦となる施設です．しかし，当地福山市は非県庁所在地で医学部のある大学が存在せず，最も医療スタッフを有する当院ですら内科若手スタッフが少なく，この状況のなかで，日勤帯の救急当番や緊急処置および内科当直の担い手である専攻医を 1 年間連携施設または特別連携施設へ出す人的余裕がない可能性があります．そこで，今回は基幹施設以外での研修は 6-12 か月として，当院の実情に合致した比較的 Subspeciality を重視した研修プログラムを作成しました．基幹施設以外での研修期間については，今後専攻医の人数等により見直していく予定です．

まず，専門研修 1 年目は，基幹施設である福山市民病院内科で 1 年間の専門研修を行います．内分泌をのぞく各専門分野に専門医を配していますが，横のつながりが良い当院の特徴を生かして，必要な経験すべき症例を効率よく経験して頂きます．専門研修 2 年目は，専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，連携施設または特別連携施設 1-2 か所で 6-12 か月ずつ研修をします（図 1）． 1 か所は症例の補充や専門研修を目的とした高次機能・専門病院，他の 1 か所は地域医療に根差した地域の基幹病院や特別連携病院が望ましいと思われます．院外研修が 6 か月の際は，残りの 6 か月は当院で再び専門研修し，不足症例を充填すると共に専門医病歴を提出します．専門研修 3 年目の 1 年間も当院で専門研修しますが，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

（1）福山市民病院臨床研修部の役割

・福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行います．

・福山市民病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴ

リー別の充足状況を確認します.

- 3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って改善を促します.
- 福山市民病院教育研修部は，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査技師・放射線技師・臨床工学技士，事務職員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適性，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，福山市民病院教育研修部もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が福山市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
- 専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- 専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や福山市民病院教育研修部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.
- 専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学

会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し，統括責任者が承認します.

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します.

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み（P．54 別表 1「福山市民病院　各年次到達目標」参照）.

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

ⅲ）所定の 2 編の学会発表または論文発表

ⅳ）JMECC 受講

ⅴ）プログラムで定める講習会受講

ⅵ）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）福山市民内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に福山市民病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお，「福山市民病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「福山市民病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】を別に示します.

13．専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

（P.52「福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

1）福山市民病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者兼管理委員会委員長（副院長），統括副責任者（内科統括科長），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（各専門分野責任者）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（P.50 福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を病院総務課におきます．

ii）福山市民病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します．

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)1 か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動

a)学会発表，b)論文発表

④ 施設状況

a)施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催．

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14．プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します．

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．

15．専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします．

専門研修（専攻医）で基幹施設である福山市民病院で研修中は福山市民病院の就業環境に，専門研修（専攻医）2 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき就業します（P.19「福

山市民病院内科専門研修施設群」参照）.
基幹施設である福山市民病院の整備状況：
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
・福山市会計年度任用職員として労務環境が保障されています.
・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修管理委員会）があります.
・ハラスメントに対する相談窓口を病院総務課に設置し，ハラスメント対策委員会を院内に整備しています.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.19「福山市民病院内科専門施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，福山市民病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.
① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項
なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.
・担当指導医，施設の内科研修委員会，福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，福山市民病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して福山市民病院内科専門研修プログラムを評価します.
・担当指導医，各施設の内科研修委員会，福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，お

よび日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

福山市民病院臨床研修センター（仮称）と福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は，福山市民病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて福山市民病院内科専門研修プログラムの改良を行います.

福山市民病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17．専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年 7 月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，11 月 30 日までに福山市民病院の website の福山市民病院医師募集要項（福山市民病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って募集します．書類選考および面接を行い，翌年 1 月の福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します.

(問い合わせ先)　福山市民病院教育研修部（事務局：病院総務課）

E-mail: shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp （病院総務課）

HP: https://www.fc-hosp.jp/site/rinsho/

福山市民病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います.

18．内科専門研修の休止・中断,プログラム移動,プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて福山市民病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから福山市民病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から福山市民病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに福山市民病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会

の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム修了要件を満たしており，かつ休職期間が 4 か月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 7 時間 45 分，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません.

福山市民病院内科専門研修施設群

図1.　福山市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

研修期間：3年間（基幹施設2-2.5年間＋連携・特別連携施設6-12か月間）

表１.各研修施設の概要（剖検数：2023 年度）

	病院	病床数	内科系病床数	内科診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	福山市民病院	506	177	4	21	14	12
連携施設	川崎医科大学附属病院	1,182	337	9	32	29	13 (2022 年度)
連携施設	広島大学病院	742	不定	9	83	81	85
連携施設	倉敷中央病院	1,172	445	10	77	47	13 (2022 年度)
連携施設	川崎医科大学総合医療センター	647	125	3	22	33	11 (2022 年度)
連携施設	福山医療センター	377	142	5	10	9	5
連携施設	大田記念病院	199	98	3	5	4	1
連携施設	岡山赤十字病院	500	0	11	26	23	11
連携施設	津山中央病院	515	216	8	11	7	2 (2022 年度)
連携施設	岡山大学病院	853	221	9	86	27	8 (2022 年度)
連携施設	広島市民病院	743	222	10	42	32	10
連携施設	笠岡市立市民病院	150	70	4	1	0	0
特別連携施設	井原市民病院	150	90	4	3	3	0
特別連携施設	神石高原町立病院	60	60	2	0	1	0
特別連携施設	福山南病院	114	114	1	1	2	0
特別連携施設	府中市民病院	150	100	1	2	1	0

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病　院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝(糖)	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
福山市民病院	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎医科大学総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福山医療センター	○	○	○	△	×	×	○	×	×	×	×	○	×
大田記念病院	○	△	○	○	△	○	△	×	○	×	○	○	○
岡山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
津山中央病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
岡山大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
笠岡市立市民病院	○	○	○	△	△	△	○	×	△	○	△	○	○
井原市民病院	○	○	○	△	○	×	×	×	△	×	×	○	○
神石高原町立病院	○	○	△	×	○	△	○	×	△	△	△	○	○
福山南病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	○
府中市民病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○・△・×）に評価しました.
〈○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．福山市民病院内科専門研修施設群研修施設は広島県および岡山県の医療機関から構成されています.

福山市民病院は，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である川崎医科大学附属病院，広島大学病院，倉敷中央病院，岡山大学病院，大田記念病院，地域基幹病院である川崎医科大学総合医療センター，福山医療センター，岡山赤十字病院，津山中央病院，広島市民病院および地域医療密着型病院である笠岡市立市民病院，井原市民病院，神石高原町立病院，福山南病院，府中市民病院で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

地域基幹病院では，福山市民病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果

たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に研修施設を調整し決定します．専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，連携施設または特別連携施設 1-2 ヶ所で 6-12 か月ずつ研修をします（図 1）.

1 か所は症例の補充を目的とした高次機能・専門病院，他の 1 か所は地域医療に根差した地域の基幹病院や特別連携病院が望ましいと思われます.

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

主に広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています．最も距離が離れている広島大学病院は広島市内にあるが，福山市から新幹線を利用して，25 分程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

1) 専門研修基幹施設

福山市民病院

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 21 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のオープンカンファレンス・がん診療連携フォーラムを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・特別連携施設の専門研修では，メールや電話や月 1 回の福山市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，内分泌を除く，総合内科，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，感染症，膠原病，糖尿病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2019 年度 10 体，2020 年度 1 体※新型コロナウイルスのため減少，2021 年度 11 体，2022 年度 10 体，2023 年度 12 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています. ・治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 12 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 3 演題以上）をしています．又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2022 年度実績 16 演題以上) ・日本内科学会　英文紙（Internal Medicine）への論文投稿に取り組んでおります.

指導責任者	植木　亨 【内科専攻医へのメッセージ】 　福山市民病院は，福山市を中心に，広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）を医療圏とする急性期基幹病院です．国が指定する，福山・府中二次医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており，「がん診療」を中心とした高度の専門的医療を展開する一方，3 次救急を受け入れる「救命救急センター」を併設しており，「地域の救急医療」の中心的な担い手ともなっています． 　本プログラムは，地域完結型医療の急性期医療を担当する病院として，協力病院と連携しながら，地域密着型医療研修を通して質の高い内科医を育成することが目標です．地域に根差した病院である当院では，一貫してジェネラルマインドを持ったスペシャリストの養成を目指しています．加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育てることを目的とします．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名 日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本肝臓学会専門医 3 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医　4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名　　ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数　219,037　人/年（2023 年度実績） 入院患者延べ数　139,486　人/年（2023 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病院連携なども経験できます．

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会連携研修施設　など

2) 専門研修連携施設

1.. 川崎医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書館，自習室，インターネット環境に加え，良医育成支援センターおよびシミュレーションセンター（腹腔鏡，内視鏡，蘇生など）があります. ・川崎医科大学附属病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ・セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会が大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室を整備し，さらに産前産後休暇・育児休業，妊娠期間中の当直免除の申請可能，小学校入学までの当直免除申請可能などの女性医師支援に取り組んでいます. ・敷地内に子育て支援センターがあり，保育所および病児保育が利用可能です. ・福利厚生面の充実に力を入れ，独身者には病院から 1km のところにアパート（二子レジデンス）があり，希望者はおおむね利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 32 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム研修実務委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・院内感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療安全 4 回，院内感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・レジデントセミナーCPC を定期的に開催（2023 年度実績 3 回）し，専攻

	医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスとして，cancer seminar, case conference, oncology seminar，岡山県緩和ケア研修会を定期的に開催し，専攻医に受講を奨励し，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 9 分野のうち、消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、脳卒中、リウマチ・膠原病のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同中国地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	三原　雅史 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医科大学は中核市である倉敷市内に附属病院、政令指定都市である岡山市内に総合医療センターの 2 つの附属病院を有し、岡山県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学附属病院の内科系 9 診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。院内には約 80 のカンファレンス室が用意されていて、常時有効に利用することが可能です。 同時に、大学の研究室、研究センターなども有機的に利用でき、希望に応じて医学教育への参画や臨床研究の実践に取り組むこともできます。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名、 日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本脳卒中学会専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	年間総外来患者数 27,506（全科），4,635（内科） 年間総入院患者数 191,442（全科），66,457（内科）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例をすべて経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 ステントグラフト実施施設（腹部大動脈瘤）（胸部大動脈瘤） 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本動脈硬化学会専門医教育施設

2. 広島大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・広島大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が広島大学に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 56 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 31 演題の学会発表（2022 年度実績）をしています.
指導責任者	服部　登 【内科専攻医へのメッセージ】 広島大学病院は，広島県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，研究活動を通じて医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 83 名，日本内科学会総合内科専門医 81 名，日本消化器病学会消化器専門医 30 名，日本循環器学会循環器専門医 22 名，日本糖尿病学会専門医 12 名，日本内分泌学会専門医 5 名，日本腎臓学会専門医 10 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 20 名，日本血液学会血液専門医 7 名，日本神経学会神経内科専門医 21 名，日本アレルギー学会専門医（内科）4 名，日本リウマチ学会専門医 7 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 144,374 名（年間）　入院患者 6,854 名（年間）(2021 年)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本老年医学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本神経学会専門医研修施設、日本内科学会認定専門医研修施設、日本老年医学会教育研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本東洋医学会研修施設、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本感染症学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、ステントグラフト実施施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設など

3. 公益財団法人大原記念倉敷医療機構　倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・倉敷中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ・ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 77 名在籍しています（専攻医マニュアルに明記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して，基幹施設，連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します. ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（年間実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では，基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います.

認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています．又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2022 年度実績 139 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 77 名，日本内科学会総合内科専門医 47 名, 日本消化器病学会消化器専門医 13 名，日本循環器学会循環器専門医 15 名, 日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 11 名, 日本腎臓病学会専門医 8 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名, 日本血液学会血液専門医 9 名，日本神経学会神経内科専門医 8 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 2 名, 日本感染症学会専門医 3 名，日本救急医学会専門医 4 名, 日本肝臓学会専門医 7 名， 日本老年医学会専門医 3 名, 臨床腫瘍学会 4 名，消化器内視鏡学会専門医 16 名ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数 270,800 人/年（2022 年度実績） 入院患者数 13,255 人/年（2022 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　　など

4.. 川崎医科大学総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修病院基幹型研修指定病院で，NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・川崎医科大学総合医療センター常勤職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会（暴言，暴力の窓口）が院内に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています．女性専攻医専用の更衣室，休憩室も完備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 22 名(総合内科専門医 33 名)が在籍しています. ・内科専攻医研修委員会（9 名）を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回，倫理講習 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．医療倫理については，上記以外にも川崎医科大学・同附属病院倫理委員会主催の「人を対象とする医学系研究に関する教育研修会」を年 1 回開催しており，「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「統合倫理指針・臨床研究法に基づいた臨床研究の実施」についての講習を受けています. ・CPC を定期的に開催（2023 年度は実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECC については当院には 2 名のインストラクターが在籍し，2023 年度は 1 回開催しました.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野において，定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・内科系剖検体数は，2021 年度 10 体，2022 年度 11 体，2023 年度 11 体で，専門研修に必要な剖検数を得られる予定です.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会中国地方会に 2021 年度 10 演題，2022 年度 9 題，2023 年度 7 題，3 年間で計 26 演題を発表しています.
指導責任者	河本　博文 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医科大学は，岡山県の中核市である倉敷市内に附属病院，そして政令指定都市である岡山市内に当院を有しています．当院は，一般医療および救急医療から，大学附属病院としての高度専門医療および緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です．多くの大学附属病院では内科学が専門別あるいは臓器別に診療されることが多いですが，当院では 4 つの総合内科学教室と脳卒中学教室が実践的な内科診療を行っています。すなわち、一般診療を高いレベルで行う総合内科医として全人的医療をするとともに、各分野の専門医として治療を行っています。そのため、総合内科専門医の取得とともに subspecialty の道へもスムーズに移行できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本消化器病学会消化器専門医 14 名、日本消化器内視鏡学会専門医 11 名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 8 名、日本肝臓学会専門医 6 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名、日本神経学会専門医 5 名、日本結核病学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本血液学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本脳卒中学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床神経生理学会 2 名、日本緩和医療学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	2022 年度の内科系外来患者数は 60,613 名（うち救急外来患者は 4,251 名），内科系入院患者は 3,607 名でした.

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，稀な疾患を除けば幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	地域の開業医等を対象としたセミナーや研修会を開催するなど，病診連携体制を強化すると同時に，急性期医療を脱した患者の逆紹介を推進し，地域社会との共存共栄を図りながら連携を推進することができます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本血液学会研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会准教育施設、日本東洋医学会研修施設、日本感染症学会研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本脳卒中学会研修教育病院

5. 独立行政法人国立病院機構　福山医療センター

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境に加え，シミュレーション室（腹腔鏡，内視鏡，蘇生，気管挿管等）があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・談話室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・徒歩 1 分圏に保育所があり利用可能です.
認定基準【整備基準 24】2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 10 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度受講実績各 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（地域医療従事者研修）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・院内で JMECC を開催，以降も 1 回/年度予定．プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，救急医療の知識を深めます.
認定基準【整備基準 24】3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています. ・国立病院総合医学会での発表を推奨します. ・ともに学び，ともに育つ（共学共育型）をスローガンに掲げる学習型病院です.
指導責任者	豊川達也 【内科専攻医へのメッセージ】 　国立病院機構福山医療センターは，広島県東部医療圏の中心的な機能を満たす病院の一つであり，広島県指定がん診療連携拠点病院，エイズ治療拠点病院，地域医療支援病院等の 2 認定施設として，連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．また，サブスペシャリストから最新の医療を学ぶことにより，豊富で幅広い知識と経験を積むことができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 9 名，日本肝臓学会肝臓専門医 2 名, 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名，日本消化器病学会指導医 1 名，日本内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名, 日本消化器内視鏡指導医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名
外来・入院患者数 （内科）	2023 年実績（内科） 　外来患者 162.9 名（1 日平均），3339.5 名（1 ヶ月平均） 入院患者数 2,802 名（年間）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，肺炎などの呼吸器疾患や消化性潰瘍などの消化器疾患などを中心として，内科領域の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育関連施設 日本消化器病学会 認定施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本循環器学会 専門医研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本気管支学会 認定施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本肝臓学会 認定施設 日本臨床細胞学会 認定施設 日本プライマリケア学会 認定医研修施設 日本アレルギー学会 認定教育施設 日本がん治療認定医療機構 認定研修施設 日本感染症学会 連携研修施設 日本感染症学会 認定研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設　など

6. 脳神経センター 大田記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度における協力型臨床研修病院です. ・医局内に国内外の図書があり研修に必要なインターネット環境があります. ・専攻医として労務環境が保証されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室や更衣室等が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名在籍しています. ・院内に研修委員会を設置しており，専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設で行われる CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 領域のうち，とくに神経，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています. （2023 年度実績 日本内科学会 1 件）
指導責任者	寺澤由佳 脳神経内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 脳神経センター大田記念病院は広島県福山市にある備後地域（広島県東部および岡山県西部）の救急医療および急性期医療の中核をなす 199 床の医療機関である．備後地域の脳神経疾患の約 7 割の患者を診療しており，脳卒中，てんかん，脳炎や免疫疾患などの急性期疾患に加え，パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの難病患者も多く診療している. 特に脳卒中治療は超急性期治療において地域の中心として活動しており，血管内治療においては脳神経内科と脳神経外科の共同チームで治療にあたっている．2018 年度からは回復期病棟が開設され，超急性期から回復期・維持期・生活期全体までの診療の流れを学ぶことができる．SCU を全国でも有数の 21 床有しており，他職種とのチーム医療体制も構築されているため，医師としてのチーム医療への関わりも学習できる．また，循環器内科の充実により冠動脈疾患，末梢動脈疾患にも対応した血管センターとしても機能しており，全身の血管病に関する知識習得も可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 6 名,
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数　34,949 人/年（2023 年度実績） 入院患者数　　2,130 人/年（2023 年度実績）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域分野のうち，神経の分野で超急性期から回復期・維持期・生活期全体まで広く経験することができます．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことでき

	ます.
経験できる技術・技能	指導医・上級医による指導をうけながら，主治医として外来・入院診療の研鑽を積む．脳神経内科症例検討会を通じて脳神経内科の考え方や知識を学び，必要な診断方法や治療方針を習得していく．また，主治医ではなくとも，カンファレンスや総回診を通じて幅広い疾患に対する理解と経験を深める．検査業務については，指導の下に適切に施行出来るようにする（脳波・電気生理，脳神経超音波検査，高次脳機能検査，自律神経検査，その他希望に応じて神経放射線検査，血管内治療（常勤指導医），嚥下造影など）．脳卒中に関しては経静脈的血栓溶解療法や血管内治療などの超急性期治療からSCU での全身管理、再発予防やリスク管理などまで広く学ぶことができる．また，SCU では多職種チーム医療の中心的な役割を担う医師としての役割も学ぶことができる．難病の診療においては最新の知見に基づく治療に加え、進行期の難病患者の全身管理や各種サービスを利用して在宅医療をどのように維持していくかなど社会的な資源についても学ぶことができる。指導医や上級医の指導の下、各種書類を適切に記載する．医療安全・医療倫理の講演会には積極的に出席する．
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については，急性期治療後の治療・療養が必要な患者の診療・残存機能の評価，多職種および家族とともに今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整など．当院では 2008 年から脳卒中地域連携パスを積極的に導入し，連携医療機関との情報交換を密に行い，地域完結型の脳卒中医療を実践することにも力を入れている．また，難病診療においても，周辺医療機関等との連携強化，研修等の実施を行い，かかりつけ医や介護施設と情報を共有するため，情報共有シートの作成を行っている．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、 日本神経学会認定教育施設、 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設、 日本臨床神経生理学会 認定施設 （教育施設：脳波分野、筋電図・准教育施設：神経伝導分野）

7. 岡山赤十字病院

認定基準 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・岡山赤十字病院シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が院内に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.

認定基準 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 26 名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，プログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 医療 安全 10 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け， そのための時間的余裕を与えます. ・ＣＰＣ を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	佐久川　亮 【内科専攻医へのメッセージ】　岡山赤十字病院は，岡山県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは初期臨床研修修了後に当院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名，日本内科学会総合内科専門医 23 名，日本呼吸器学会専門医 4 名，日本循環器学会認定循環器専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 4 名，日本消化器病学会専門医 4 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会指導医 3 名，日本消化器内視鏡学会指導医 3 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名，日本老年医学会認定老年病専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 2 名，日本内科学会専門医 2 名，日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2 名，日本リウマチ学会リウマチ指導医 2 名，日本肝臓学会肝臓専門医 2 名，日本血液学会血液指導医 2 名，日本血液学会血液専門医 2 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 2 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名，日本消化器病学会指導医 1 名，日本臨床腫瘍学会指導医 2 名，日本老年医学会指導医 2 名，日本老年医学会認定老年病指導医 2 名，日本血液学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名，日本消化器病専門医 1 名，日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名，日本脈管学会専門医 1 名，人間ドック学会人間ドック健診指導医 1 名，人間ドック学会人間ドック健診専門医 2 名，日本エイズ学会指導医 1 名，日本肝臓学会指導医 1 名，日本血液内科学会認定血液指導医 1 名，日本血液内科学会認定血液専門医 1 名，日本抗加齢学会認定専門医 1 名，日本甲状腺学会専門医 1 名，日本消化器学会消化器病専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会認定専門医 1 名，日本消化器内視鏡専門医 1 名，日本消化器病学会消化器病専門医 1 名，日本消化器病学会認定専門医 1 名，日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名，日本神経学会認定指導医 1 名，日本神経学会認定専門医 1 名，日本腎臓学会指導医 1 名，日本腎臓学会専門医 1 名，日本胆道学会指導医 1 名，日本胆道学会認

	定指導医１名，日本糖尿病学会研修指導医１名，日本糖尿病学会専門医１名，日本糖尿病学会認定専門医１名，日本透析学会指導医１名，日本透析学会専門医１名，日本内科学会専門医１名，日本内科学会認定指導医１名，日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医１名，日本脳卒中学会指導医１名，日本脳卒中学会専門医１名，日本不整脈学会専門医１名，日本臨床腫瘍学会暫定指導医１名，日本老年医学会専門医１名，日本老年医学会老年専門医１名，日本膵臓学会認定指導医１名
外来・入院 患者数	外来患者 7,157 名（１ヶ月平均延数） 新入院患者 513 名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈心電図専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

8. 一般財団法人津山慈風会　津山中央字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事総務部担当）があります. ・ハラスメント委員会が津山中央病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.

	・敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 11 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者岡　岳文（循環器内科主任部長），プログラム管理者北村卓也（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています. ・医療倫理研修会（2023 年度実績 1 回）・医療安全研修会（2023 年度実績 6 回）・感染対策研修会（2023 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，津山中央病院主催地域参加型のカンファレンス（CC セミナー2023 年度実績 11 回），定期的に開催される医師会主催講演会（鶴山消化器カンファレンスなど（2023 年度実績 27 回）に，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度受講者 5 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します. ・特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の津山中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 1 体，2021 年度実績 3 体，2022 年度実績 2 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています. ・治験管理室を設置し定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 11 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています.
指導責任者	岡　岳文 【内科専攻医へのメッセージ】 　津山中央病院は，岡山県津山英田医療圏に位置する基幹病院です．岡山県北部はもとより兵庫県の一部も診療圏に含んでおり，高齢化が急速に進んでいる地域です．県北部唯一の救命救急センターを有するため 1 次から 3 次救急までの幅広い症例を経験し，多くの手技を習得することが可能です．さらに県内近隣医療圏の連携施設，特別連携施設での内科研修を経験することで幅広い症例を経験し，さらに地域医療へのマインドを持った内科専門医を目指すことが可能です．指導医はもとより病院全体でバックア

	ップします. 　主治医として，入院から退院＜初診・入院~退院・通院＞まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．サブスペシャリティとの併行研修も可能です．できる限り本人の研修の希望は添いたいと思います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名， 日本消化器病学会専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 5 名， 日本循環器学会専門医 7 名，　　日本不整脈学会専門医 1 名， 日本心血管インターベンション学会専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 2 名，　　日本腎臓学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数 5936 名（内科・循環器内科：2022 年度 1 ヶ月平均） 入院患者 407 名（内科・循環器内科：2022 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 不整脈専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　　など

9. 岡山大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・岡山大学病院レジデントとして労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・休憩室，更衣室，仮眠室，当直室等が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログ	・指導医が在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.

ラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべて（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および 救急の分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会，同地方会，その他国内外の内科系学会で多数の学会発表をしています.
指導責任者	和田淳 【内科専攻医へのメッセージ】 岡山大学病院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し，優れた医療人を育てます．」です．本院は高度先進医療の推進，遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において，全国でもっとも進んだ施設であるとともに，中国四国地方中心に約 250 の関連病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動も 行っています．当院の内科研修では，ジェネラルからエキスパートまで質の高い内科医を育成します．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，リサーチマインドを持って医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とします.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 86 名、 日本内科学会専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 39 名、 日本消化器内視鏡学会指導医 12 名 日本内科学会総合内科専門医 27 名、 日本循環器学会循環器専門医 14 名、 日本内分泌学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 10 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 9 名、 日本糖尿病学会専門医 7 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 43,054.2 名（1 ヶ月平均延数） 2023 年 4 月～2024 年 3 月 入院患者 16,869.7 名（1 ヶ月平均延数） 2023 年 4 月～2023 年 3 月
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することがで きます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設 日本高血圧学会認定高血圧症専門医制度認定施設 日本脳卒中学会脳卒中専門医制度認定研修教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本肥満学会専門医制度認定肥満症専門病院 日本不整脈学会・日本心電学会合同不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設　　など

10. 地方独立行政法人広島市立病院機構　広島市立広島市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・広島市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員保健室）があります. ・ハラスメント対応窓口が広島市立病院機構に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育室があり，利用可能です. ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 42 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・プログラム管理者（内科主任部長，総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ･医療倫理講習会（年 2 回）・医療安全講習会（年 6 回）・感染対策講習会（年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（年 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医療者がん研修会　年 6 回，マルチケアフォーラム　年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.（上記） ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2023 年度 10 体，2022 年度 12 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研修に必要な図書室，インターネット環境を整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 11 回）しています. ･治験コーディネーター業務および事務局業務は治験施設支援機関（SMO）に委託しており，定期的に治験審査委員会を開催（年 11 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（20233 年度実績 3 演題，2021 年度実績 2 演題，）をしています.
指導責任者	植松周二 【内科専攻医へのメッセージ】 広島市立広島市民病院は，広島市の中心部に位置し，広島県都市部医療圏の中心的な急性期病院であり，救急医療，がん医療（地域がん診療連携拠点病院），高度医療を担っています．救急診療部，密度の高い救急医療を研修できます．都市部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修をおこない，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境整備をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数	日本内科学会指導医 42 名，日本内科学会総合内科専門医 32 名

（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 14 名，日本肝臓学会肝臓専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本アレルギー学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 12 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名， ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者延数 117,597 名/年　内科系入院患者延数 7,895 名/年　救急外来患者延数 19,609 名/年　（2023 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本血液学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会連携研修施設 など

11. 笠岡市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります. ・笠岡市立市民病院非常勤医師として労務環境が保証されています. ・安全衛生委員会が職員暴言，暴力担当窓口として院内に設置されています．令和 4 年度から警察官ＯＢを雇用しています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（開催予定）を定期的に参画し，専門医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設である福山市民病院で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専門医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	小栗栖和郎（院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　笠岡市立市民病院は，内科を中心に整形外科，外科，産婦人科，皮膚科，泌尿器科，リハビリテーション科を擁する岡山県井笠地区の基幹病院です．その基本理念は，‘市民の皆様から　世代を超えて永続的に　愛され親しまれ　信頼される病院に’です. 　急性期のみならず，亜急性期，慢性期の医療にも力を注いでいます．特に笠岡市が推進している地域包括ケアに積極的に参加し，医療介護連携の実効性あるシステム作りを目指しています．また，笠岡諸島の３つの診療所，在宅医療などを体験することができます. 　また，チーム医療を推進しており，糖尿病療養指導チーム，呼吸器医医療チーム，心リハチーム，栄養サポートチーム，感染コントロールチーム，がん医療サポートチームなど多種のチームに参加し，多職種との意見交換ができ，安心安全で質の高い医療が実践できます.
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会総合専門医　　1 名 ・日本呼吸器医学会専門医　　1 名 ・日本アレルギー学会専門医　1 名 ・日本循環器学会専門医　　1 名
外来・入院患者数	外来患者数　40,978 人（令和 5 年度） 入院患者数　35,329 人（令和 5 年度）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験をすることとなります．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます．また，島しょ部診療所においてへき地医療についても学ぶことができます.

経験できる技術・技能	・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価） ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について ・患者本人のみならず家族とコミュにケーションの在り方 ・かかりつけ医としての診療の在り方 ・嚥下機能評価及び口腔機能評価による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取組 ・褥瘡についてのチームアプローチ
経験できる地域医療・診療連携	・入院診療については，急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療 ・残存機能評価 ・多職種及び家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施に向けた調整 ・在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携 ・ケアマネージャーによるケアマネージメント（介護）と医療との連携について ・地域における産業医・学校医としての役割
学会認定施設（内科系）	・日本呼吸器学会認定施設 ・日本アレルギー学会認定施設

3) 専門研修特別連携施設

1. 井原市立井原市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度における協力型臨床研修病院です. ・研修に必要な図書室（兼カンファレンス室）とインターネット環境（Wi-Fi）がある. ・井原市立井原市民病院非常勤医師として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります. ・ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が井原市立井原市民病院内に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されている. ・病院専用の保育所があり，利用可能（要相談）です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設である福山市民病院で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えま

	す. ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会，循環器研究会，消化器病研修会）は基幹病院および井原医師会が定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝および救急などの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表を予定しています. ・臨床研究に必要な図書室（カンファレンス室兼用）を整備しています. ・倫理委員会を設置し不定期に開催しています.
指導責任者	前田　徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 ・井原市立井原市民病院は岡山県南西部保健医療圏の井原市にあり，昭和３８年の創立以来，地域医療に携わる地域の中核的病院としての役割を担っており，在宅療養支援病院です. ・本院のミッションは「地域住民の尊厳を守り，命を守り，健康増進を支援する．」であり，初期及び二次救急医療を柱に，予防医療，急性期医療から回復期，慢性期さらには在宅医療，健診・ドックなど地域医療の幅広い領域に貢献し「地域とともに歩む，より愛される病院」を目指しています. ・地域の拠点病院として，周辺の医療機関や福祉施設との連携を大切にしています．外来では，内科，循環器内科をはじめ 15 診療科により地域医療の拠点的役割を果たしています. ・病棟では，医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種及び家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性を決定しています. ①急性期後の慢性期・長期療養患者診療，②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方，③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰，④在宅患者（自院の在宅患者，および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰に力を注いでいます. ・在宅の下支えとして，訪問看護，訪問リハビリ，通所リハビリテーション等も実施しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会　総合内科専門医　3 名 日本消化器病学会　消化器専門医　2 名 日本糖尿病学会　専門医　1 名 日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医　2 名
外来・入院患者数	外来患者　51,011 名（令和 5 年度年間延数） 入院患者　42,286 名（令和 5 年度年間延数）
経験できる疾患群	・研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，急性期，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります.その中でも特に消化器，呼吸器，循環器，悪性新生物の終末期，感染症，代謝疾患を経験できます. ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の受診が多いため，疾患のみを診るのではなくその治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶこ

	とができます.
経験できる技術・技能	・内科専門医に必要な技術・技能を，一般病床，地域包括ケア病床及び療養病床の枠組みのなかで経験していただきます．上部及び下部消化管内視鏡検査技術の習得ができます. ・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時に入院診療へ繋ぐ流れ，反対に入院から在宅復帰へ繋ぐ流れを経験していただきます.
経験できる地域医療・診療連携	・当院は，医師，看護師，介護士，リハビリ療法士，薬剤師，栄養士，歯科衛生士，MSW による他職種連携を行っており，チーム医療における医師の役割を研修していただきます. ・入院診療については，かかりつけ医からの紹介患者や当院外来からの救急患者の診療，高度急性期病院から転院してくる引き続き治療・療養が必要な患者の診療．残存機能の評価，多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整を経験していただきます. ・在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療，それを相互補完する訪問看護と訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションについて地域医療連携室を核とした調整・連携．施設へ入所する患者については，連携室を核とした医療と施設の連携について経験していただきます. ・近隣の医療機関からの紹介や逆紹介における連携等，地域全体での医療連携の在り方を経験していただきます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導連携施設

2. 社会医療法人社団陽正会　神石高原町立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です. ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります. ・常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，無料官舎、更衣室，女性休憩室，当直室が整備されています. ・町内保育所があり，補助金利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全講習会（年 2 回）・感染対策講習会（年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスに参加を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設である福山市民病院で行う CPC 参加を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 領域のうち，総合内科Ⅰ・Ⅱ，および救急の分野で定常的に専門研修が可能です.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	基幹施設と連携し日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.

指導責任者	原田　亘 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は広島県福山・府中二次医療圏の北部中山間地に位置する、地域密着型の 60 床の混合型病院です．初期救急医療から慢性期医療さらに在宅医療まで幅広く医療を実施しています．へき地医療拠点病院として診療所の診療援助および無医地区への巡回診療の他、通院困難者の訪問医療や訪問看護も実施しています．また学校医や予防接種などの地域保健活動も実施しています．地域特性として高齢者医療が主体となりますが、病診、病病連携や在宅医療さらに介護施設診療を実地に研修することを通して、内科専門医として必要な医療介護制度や保健・福祉について研修する機会を提供します．また地域包括ケアを経験することにより、地域医療や社会医療制度について考える良い機会となります．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名， 日本老年医学会老年病専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 2,405 名（1 ヶ月平均）　入院患者 44 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳にある内科領域 13 領域のうち，ファーストコンタクトでは全領域となりますが、主に総合内科Ⅰ・Ⅱ，および救急の分野の症例を経験できます．特に複数の疾患を併せ持つ高齢患者比率が高く，全身を総合的に診るのみならず、家族背景、社会的背景まで考慮した総合的な医療の実践が可能です．
経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます． 終末期ケア，緩和ケア，認知症ケア，褥瘡ケア，廃用症候群のケア，嚥下障害を含めた栄養管理，リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です．
経験できる地域医療・診療連携	当院は医師，看護師，介護士，リハビリ療法士，薬剤師，栄養士，MSW による多職種連携を実践しています．チーム医療における医師の役割を研修します． さらには急性期病院との連携，かかりつけ医との連携，ケアマネージャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています．ケースにより病院退院時には退院前カンファレンスを開催してケアマネージャー等との顔の見える連携を実施します．
学会認定施設 （内科系）	日本老年医学会認定施設

3. 医療法人紫苑会　福山南病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です． ・研修に必要なインターネット環境があります． ・勤務時間週 40 時間以内の労務環境が保障されています． ・法人向け医師賠償責任保険（県医師会団体契約）に加入しています． ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります．
認定基準 【整備基準 23】	・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります．

2)専門研修プログラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・基幹施設，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えています. ・地域参加型のカンファレンス（広島 GIM）が定期的に開催されており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています.
認定基準 【整備基準 23・31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，腎臓，呼吸器，感染症，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	宮阪　英 【内科専攻医へのメッセージ】 2023 年 12 月に福山市南部の水呑町（みのみちょう）に移転し,地域住民のプライマリ・ケア診療に従事し，救急医療から急性期・慢性期・在宅・健診まで幅広い医療を提供しています. 　当院の魅力は，救急医，家庭医，総合内科医が揃っており，患者様に対して幅広い診療領域をカバーし，質の高い医療を提供することができる点です．また,研修医に対して多様な専門知識や技術を身につける機会を提供しています. 　基本理念は，「一人ひとりの“いきる”を支える」です. 　病棟では急性期病床と地域包括ケア病床を有し，急性期と早期の在宅復帰を目指しています．また，医師を含む各職種が協力してチーム医療を行い，患者様に最適な医療を提供するために全人的に診る包括的医療を実践しています. 　医学教育に力を入れており，Faculty Development の研修コースを受講修了者が 3 名所属し，病院全体で教育のサポート体制が整っています. 　専攻医にとって充実した環境とサポートが整っており，一人一人が成長できる場を提供しています. 　指導医として，皆さんの研修生活が有意義で充実したものになるよう，全力でサポートしていきます．どんな疑問や悩みも遠慮なくお聞かせください．一緒に学び，成長していきましょう. 福山南病院での研修をお待ちしています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1 名，日本内科学会総合内科専門医　2 名 日本消化器病学会専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本プライマリ・ケア連合学会指導医　2 名 家庭医療専門医　1 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 862 名（1 ヶ月平均） 入院患者 3 名（1 日平均）

経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者中心の診療を通じて，広く経験することとなります．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます．
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，地域の内科中心の病院という枠組みのなかで，経験していただきます． 健診，健診後の精査，地域の内科外来としての日常診療，必要時入院診療へ繋ぐ流れなども経験していただきます． 高齢者が大半のため，入院診療については感染症，心不全，気管支喘息，電解質異常などの疾患が多いですが，いわゆる common disease を数多く経験できます.さらに敗血症性ショックなどの重症疾患や，血液疾患，腎・内分泌疾患，不明熱まで幅広くほぼ全ての内科疾患を診ておりこれらも経験できます．手技に関しては，あらゆる一般的手技を経験していただく機会があります． その他，急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）．複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について．患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方などを学びます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期病院から治療後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療．残存機能の評価，多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整なども行います． 在宅へ復帰する患者については，地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携などを行います． 地域においては，連携している高齢者複合施設における訪問診療と，急病時の診療連携などがあります． 地域における産業医・学校医としての役割．予防接種なども経験して頂きます．

4．地方独立行政法人府中市病院機構　府中市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期医療研修における地域医療研修施設です 研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります 府中市民病院非常勤医師として労務環境が保障されています メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課および産業医）があります ハラスメント等防止規程による相談窓口（人事課）が府中市民病院内と外部にも相談窓口が設置されています 女性専攻医が安心して勤務できるように，セキュリティカードにより入室制限がかけられたエリア内に，医局，更衣室，当直室が整備されています 病院内に院内保育施設があり，病児保育室も利用可能です
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスには積極的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます

	・基幹施設で行われる CPC に，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・地域参加型のオープンカンファレンスは基幹病院および府中地区医師会が定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．救急の分野については，高度ではなく，二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室などを整備しています 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表に努めます（2023 年度実績 0 演題）
指導責任者	多田敦彦　府中市民病院院長 【内科専攻医へのメッセージ】 府中市民病院は，広島県の福山・府中二次医療圏の府中市にあり，地方独立行政法人府中市病院機構が運営する府中市南部で唯一，一般病床（100 床：うち地域包括ケア病床 50 床）を有する一般病院です． 府中地区の二次救急輪番制病院を担い，広島県のへき地医療拠点病院にも指定されており，地域医療の中心的な役割を果たしています． 当院が心がけていることは「ひとりひとりの人生に寄り添い支える医療」と「健康長寿の地域づくり」です．平成 28 年 2 月，同一敷地内に建て替えた新病院での業務を開始しています． 内科外来では，内科一般および専門外来の充実に努め，健診・ドックの充実にも努めています． 医療療養病床（50 床）は，①急性期後の慢性期・長期療養患者診療，②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方，③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰，④在宅患者（自院の在宅患者および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰に力を注いでいます． 在宅医療については，訪問診療を併設訪問看護ステーションとの連携のもとに実施しています． 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し，治療の方向性，在宅療養の準備を進め，切れ目のない医療連携を推進しています．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1 名， 日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名
外来・入院患者数 （2023 年度）	外来患者 5,527 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 116.5 名（1 日平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります．複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，一般病床及び療養病床を有する，二次救急輪番制病院及びへき地医療拠点病院という枠組みのなかで，経験していただきます ・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能

	などの評価） ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について．患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方 ・嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による，機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み ・褥創につてのチームアプローチ
経験できる地域医療・診療連携	・入院診療については，急性期から慢性期までの治療・療養が必要な入院患者の診療．残存機能の評価，多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と，その実施にむけた調整 ・在宅へ復帰する患者については，外来診療と訪問診療，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について ・地域においては，連携している診療所や介護施設との医療・介護連携 地域における産業医・学校医としての役割 ・準無医地区への巡回診療について
学会認定施設 （内科系）	日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 日本呼吸器学会関係施設 日本アレルギー学会準教育施設 透析学会教育関連施設

福山市民病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2024 年（令和 6 年）4 月現在）

福山市民病院

植木　亨　（プログラム統括責任者，管理委員会委員長）
髙田　一郎（呼吸器分野責任者, プログラム統括副責任者，内科統括科長）
杉浦　弘幸（血液分野責任者）
吉川　昌弘（循環器分野責任者）
遠藤　久之（腫瘍分野責任者）
安中　哲也（肝臓分野責任者）
十倉　健彦（腎臓分野責任者）
小川　恒由（消化器分野責任者）
深井　雄太（神経内科分野責任者）
太田　茂　（総合内科分野責任者）
赤木　貴彦（リウマチ・膠原病分野責任者）
松本　友哉（事務局代表，病院総務課）

連携施設担当委員

川崎医科大学附属病院	三原　雅史（脳神経内科教授）
広島大学病院	服部　登（分子内科学教授）
倉敷中央病院	石田　直（副院長）
川崎医科大学総合医療センター	河本　博文（部長）
福山医療センター	豊川　達也（統括診療部長）
大田記念病院	寺澤　由佳（脳神経内科部長・脳卒中ｾﾝﾀｰ長）
岡山赤十字病院	佐久川　亮（副院長）
津山中央病院	岡　岳文（副院長）
岡山大学病院	小比賀　美香子（総合内科・総合診療科）
広島市民病院	植松　周二（内科主任部長）
笠岡市立市民病院	小栗栖　和郎（病院事業管理者職務代理者・院長）
井原市立井原市民病院	前田　徹也（院長）
神石高原町立病院	原田　亘（病院長）
福山南病院	宮阪　英（理事長）
府中市民病院	多田　敦彦（院長）

オブザーバー

内科専攻医代表 1	宮本　奈実
内科専攻医代表 2	岡　智彦

別表 1 福山市民病院　各年次到達目標

内容	専攻医3年終了時 カリキュラム提示	専攻医3年終了時 修了要件	専攻医2年終了時 経験目標	専攻医1年終了時 経験目標	病歴要約提出数
総合内科Ⅰ（一般）	1	1	1	1	総合内科で2
総合内科Ⅱ（高齢）	1	1	1	1	同上
総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1	1	1	同上
消化器	9	8	8	7	肝1，胆膵1，消化管1
循環器	10	9	9	8	3
内分泌	4	3	2	1	内分泌・代謝で3
代謝（糖尿）	5	5	4	3	同上
腎臓	7	6	6	4	2
呼吸器	8	7	7	6	3
血液	3	3	3	3	2
神経	9	8	7	3	2
アレルギー	2	2	2	1	1
膠原病	2	2	2	1	1
感染症	4	3	3	2	2
救急	4	3	3	2	2
外科紹介症例					2
剖検症例					1
合計	70疾患群	56疾患群以上	50疾患群以上	30疾患群以上	29症例 （外来は7まで）
目標経験症例数	200症例 （外来は20まで）	160症例以上 （外来は16まで）	150症例以上	90症例以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．

別表2

福山市民病院　内科専門研修　週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">朝</td><td>内科外科
放射線科
病理合同
カンファレンス</td><td>抄読会</td><td></td><td>内科カンファレンス</td><td>内科研修医カンファレンス</td><td rowspan="5">担当患者の病態に応じた診療・オンコール・当直・講習会・学会など</td></tr>
<tr><td>午前</td><td colspan="5">入院患者診療，各科検査，週1日初診外来・救急患者当番</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後
夕</td><td colspan="5">入院患者診療，各科検査，週1日初診外来・救急患者当番</td></tr>
<tr><td></td><td>各科カンファレンス</td><td></td><td>各科カンファレンス</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療・オンコール・当直・研究会など</td></tr>
</table>

・福山市民病院内科専門研修プログラム　4.専門知識・専門技能の習得計画　に従い，内科専門研修を実践します.

・上記はあくまでも例：概略です.

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより，担当する業務の曜日，時間帯は調整・変更されます.

・入院患者診療には，内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます.

・日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します.

・地域参加型カンファレンス，研究会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します.